

問 13 a 日本の離婚率は、2003年に2.25%（約28万組）でした。これから20年くらいを考えたとき、離婚率はどうなると予想されますか。

問 13 b 「1. 上昇する」を選んだ場合は、何%まで上昇すると予想されますか。

問13a

離婚率の動向	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
上昇する	252	93.0	347	89.2
現状と変わらない	17	6.3	33	8.5
低下する	1	0.4	2	0.5
わからない			3	0.8
不詳	1	0.4	4	1.0
合計	271	100.0	389	100.0

問13b

統計指標	第2回	第1回
度数 有効	249	338
欠損値	22	51
平均値	6.9944	5.8127
平均値の標準誤差	0.41550	0.25013
中央値	5.0000	5.0000
最頻値	5.00	5.00
標準偏差	6.55653	4.59864
分散	42.988	21.148
最小値	2.30	2.30
最大値	85.00	50.00

離婚率：上昇の程度

婚外子割合	第2回			第1回		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
2.30	1	0.4	0.4	4	1.0	1.2
2.40	1	0.4	0.4			
2.50				10	2.6	3.0
2.60				1	0.3	0.3
2.70				2	0.5	0.6
2.80	1	0.4	0.4	3	0.8	0.9
2.90				1	0.3	0.3
3.00	20	7.4	8.0	61	15.7	18.0
3.20	1	0.4	0.4	1	0.3	0.3
3.30				1	0.3	0.3
3.50	8	3.0	3.2	12	3.1	3.6
3.55	1	0.4	0.4			
3.60	1	0.4	0.4	1	0.3	0.3
3.70				1	0.3	0.3
3.80	2	0.7	0.8			
4.00	22	8.1	8.8	41	10.5	12.1
4.20				1	0.3	0.3
4.28	1	0.4	0.4			
4.50	1	0.4	0.4	6	1.5	1.8
4.70				1	0.3	0.3
5.00	84	31.0	33.7	109	28.0	32.2
5.20				1	0.3	0.3
5.50	1	0.4	0.4	2	0.5	0.6
5.80	1	0.4	0.4			
6.00	18	6.6	7.2	6	1.5	1.8
6.50	4	1.5	1.6			
6.58	1	0.4	0.4			
7.00	8	3.0	3.2	8	2.1	2.4
7.50	1	0.4	0.4			
8.00	12	4.4	4.8	5	1.3	1.5
10.00	48	17.7	19.3	47	12.1	13.9
15.00	1	0.4	0.4	2	0.5	0.6
20.00	5	1.8	2.0	7	1.8	2.1
29.30				1	0.3	0.3
30.00	4	1.5	1.6	2	0.5	0.6
50.00				1	0.3	0.3
85.00	1	0.4	0.4			
合計	249	91.9	100.0	338	86.9	100.0
非該当	18	6.6		41	10.5	
不詳	4	1.5		10	2.6	
	271	100.0		389	100.0	

問 14 a 日本の再婚率は、2003年に夫 1.90‰、妻 1.59‰でした。これから 20年くらいを考えたとき、妻の再婚率はどうなると予想されますか。

問 14 b 「1. 上昇する」を選んだ場合は、何%まで上昇すると予想されますか。

問14a

妻の再婚率の動向	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
上昇する	220	81.2	285	73.3
現状と変わらない	44	16.2	67	17.2
低下する	5	1.8	17	4.4
わからない	1	0.4	15	3.9
不詳	1	0.4	5	1.3
合計	271	100.0	389	100.0

問14b

統計指標	第2回	第1回
度数 有効	216	279
欠損値	55	110
平均値	4.7910	3.6136
平均値の標準誤差	0.40911	0.23026
中央値	3.0000	3.0000
最頻値	3.00	2.00
標準偏差	6.01268	3.84603
分散	36.152	14.792
最小値	1.00	1.70
最大値	74.00	50.00

妻の再婚率: 上昇の程度

婚外子割合	第2回			第1回		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
1.00	1	0.4	0.5			
1.70	3	1.1	1.4	9	2.3	3.2
1.80	1	0.4	0.5	19	4.9	6.8
1.90	1	0.4	0.5	6	1.5	2.2
2.00	32	11.8	14.8	74	19.0	26.5
2.10	1	0.4	0.5	2	0.5	0.7
2.20	1	0.4	0.5	1	0.3	0.4
2.30				4	1.0	1.4
2.50	11	4.1	5.1	19	4.9	6.8
2.80	2	0.7	0.9			
3.00	57	21.0	26.4	71	18.3	25.4
3.20	1	0.4	0.5	2	0.5	0.7
3.30				1	0.3	0.4
3.50	3	1.1	1.4	1	0.3	0.4
3.55	1	0.4	0.5			
3.60	1	0.4	0.5			
3.80	1	0.4	0.5			
4.00	23	8.5	10.6	14	3.6	5.0
5.00	46	17.0	21.3	32	8.2	11.5
5.50	1	0.4	0.5			
6.00	6	2.2	2.8	1	0.3	0.4
6.50	1	0.4	0.5			
7.00				2	0.5	0.7
8.00	3	1.1	1.4	5	1.3	1.8
10.00	10	3.7	4.6	11	2.8	3.9
12.00	1	0.4	0.5			
15.00	1	0.4	0.5	2	0.5	0.7
18.00	1	0.4	0.5			
19.00				1	0.3	0.4
20.00	3	1.1	1.4			
25.00	1	0.4	0.5	1	0.3	0.4
30.00	1	0.4	0.5			
50.00				1	0.3	0.4
74.00	1	0.4	0.5			
合計	216	79.7	100.0	279	71.7	100.0
非該当	50	18.5		103	26.5	
不詳	5	1.8		7	1.8	
	271	100.0		389	100.0	

Ⅲ. 「経済・社会の見通し」について

問15 将来(今後10～20年程度)の経済環境について、あなたの予想をおたずねします。

問15a 日本経済は長期的に再び活力を取り戻す

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	27	10.0	33	8.5
どちらかというと思う	139	51.3	164	42.2
どちらかというと思わない	93	34.3	154	39.6
そう思わない	10	3.7	31	8.0
不詳	2	0.7	7	1.8
合計	271	100.0	389	100.0

問15b 労働力人口が減少するため、失業率が低下する

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	17	6.3	29	7.5
どちらかというと思う	117	43.2	146	37.5
どちらかというと思わない	118	43.5	162	41.6
そう思わない	18	6.6	46	11.8
不詳	1	0.4	6	1.5
合計	271	100.0	389	100.0

問15c 人口減少により、一人当たり所得は豊かになる

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	8	3.0	10	2.6
どちらかというと思う	66	24.4	85	21.9
どちらかというと思わない	168	62.0	214	55.0
そう思わない	28	10.3	73	18.8
不詳	1	0.4	7	1.8
合計	271	100.0	389	100.0

問15d 所得格差が拡大する

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	160	59.0	236	60.7
どちらかというと思う	97	35.8	135	34.7
どちらかというと思わない	12	4.4	12	3.1
そう思わない	2	0.7	0	—
不詳	0	—	6	1.5
合計	271	100.0	389	100.0

問16 将来（今後10～20年程度）の労働環境等について、あなたの予想をおたずねします。

問16a 女性の労働力率は、今後さらに高まる

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	174	64.2	211	54.2
どちらかというと思う	95	35.1	162	41.6
どちらかというと思わない	2	0.7	9	2.3
そう思わない	0	—	2	0.5
不詳	0	—	5	1.3
合計	271	100.0	389	100.0

問16b 女性の就業と育児・介護が両立できる環境は、今後さらに改善される

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	38	14.0	66	17.0
どちらかというと思う	192	70.8	227	58.4
どちらかというと思わない	31	11.4	73	18.8
そう思わない	10	3.7	19	4.9
不詳	0	—	4	1.0
合計	271	100.0	389	100.0

問16c 男女の賃金格差は、今後さらに縮小する

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	44	16.2	79	20.3
どちらかというと思う	177	65.3	202	51.9
どちらかというと思わない	41	15.1	86	22.1
そう思わない	9	3.3	16	4.1
不詳	0	—	6	1.5
合計	271	100.0	389	100.0

問16d 今後、フリーターやニートはさらに増える

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	74	27.3	130	33.4
どちらかというと思う	139	51.3	178	45.8
どちらかというと思わない	55	20.3	70	18.0
そう思わない	3	1.1	5	1.3
不詳	0	—	6	1.5
合計	271	100.0	389	100.0

問17 将来（今後10～20年程度）の社会環境等について、あなたの予想をおたずねします。

問17a 長期的にみて、今後、男女共同参画化の動きがあらゆる分野で進む

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	56	20.7	109	28.0
どちらかというと思う	190	70.1	221	56.8
どちらかというと思わない	23	8.5	56	14.4
そう思わない	2	0.7	2	0.5
不詳	0	—	1	0.3
合計	271	100.0	389	100.0

問17b 犯罪などが増加し、社会不安が高まる

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	62	22.9	115	29.6
どちらかというと思う	173	63.8	220	56.6
どちらかというと思わない	34	12.5	50	12.9
そう思わない	1	0.4	2	0.5
不詳	1	0.4	2	0.5
合計	271	100.0	389	100.0

問17c 労働力減少に対応するため、今後、移民(単純労働を含む)が増加する

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	46	17.0	87	22.4
どちらかというと思う	169	62.4	214	55.0
どちらかというと思わない	52	19.2	77	19.8
そう思わない	4	1.5	11	2.8
不詳	0	—	0	—
合計	271	100.0	389	100.0

問17d 抜本的な年金制度改革が、実際に行われる

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	71	26.2	115	29.6
どちらかというと思う	142	52.4	168	43.2
どちらかというと思わない	53	19.6	83	21.3
そう思わない	4	1.5	22	5.7
不詳	1	0.4	1	0.3
合計	271	100.0	389	100.0

問18 将来（今後10～20年程度）の価値観の推移について、あなたの予想をおたずねします。

問18a 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えは、今後弱まる

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	136	50.2	172	44.2
どちらかというと思う	118	43.5	179	46.0
どちらかというと思わない	15	5.5	32	8.2
そう思わない	2	0.7	6	1.5
不詳	0	—	0	—
合計	271	100.0	389	100.0

問18b 「子どもが小さいうちは、母親は育児に専念すべき」という考えは、今後弱まる

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	77	28.4	91	23.4
どちらかというと思う	142	52.4	196	50.4
どちらかというと思わない	48	17.7	90	23.1
そう思わない	4	1.5	10	2.6
不詳	0	—	2	0.5
合計	271	100.0	389	100.0

問18c 「男女が暮らすなら結婚すべき」という考えは、今後弱まる

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	83	30.6	112	28.8
どちらかというと思う	146	53.9	185	47.6
どちらかというと思わない	41	15.1	86	22.1
そう思わない	1	0.4	4	1.0
不詳	0	—	2	0.5
合計	271	100.0	389	100.0

問18d 「子どもは法的に結婚した夫婦の間で生れるべき」という考えは、今後弱まる

選択肢	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
そう思う	57	21.0	84	21.6
どちらかというと思う	147	54.2	166	42.7
どちらかというと思わない	61	22.5	119	30.6
そう思わない	6	2.2	18	4.6
不詳	0	—	2	0.5
合計	271	100.0	389	100.0

Ⅳ. 「少子化対策」について

問19 あなたが、少子化対策として推奨する政策を選んでください。(3つまで複数回答可)

問19a 児童福祉

選択肢	第2回		第1回	
	度数	選択率	度数	選択率
総数	271		389	
1. 保育所の増設	161	59.4	203	52.2
2. 幼保一元化の推進	56	20.7	90	23.1
3. 一時預かり保育の推進	99	36.5	128	32.9
4. 児童手当の支給期間延長	71	26.2	113	29.0
5. 児童手当の増額	101	37.3	146	37.5
6. 病後児保育の推進	51	18.8	103	26.5
7. 学童保育の拡大	151	55.7	176	45.2
8. 民間保育サービスの振興助成	59	21.8	105	27.0
9. その他	14	5.2	20	5.1

問19b 働き方

選択肢	第2回		第1回	
	度数	選択率	度数	選択率
総数	271		389	
1. 企業の行動計画策定・実践を義務化	57	21.0	81	20.8
2. 育児休業制度の拡充	141	52.0	171	44.0
3. 在宅勤務制度の普及推進	51	18.8	93	23.9
4. パートタイム労働者の均衡処遇推進	73	26.9	109	28.0
5. フレックスタイム制の導入推進	81	29.9	114	29.3
6. 短時間正社員制の導入推進	105	38.7	151	38.8
7. フリーター・ニートの正規就業支援	37	13.7	67	17.2
8. 女性の再就職支援策の充実	142	52.4	193	49.6
9. 男性の育児休業取得の促進	85	31.4	122	31.4
10. その他	9	3.3	10	2.6

問19c 教育

選択肢	第2回		第1回	
	度数	選択率	度数	選択率
総数	271		389	
1. 大学教育に対する本人学費負担意識の醸成	65	24.0	92	23.7
2. 希望者全員が受けられる貸与奨学金制度	149	55	186	47.8
3. 家庭役割や子育ての意義の理解教育導入	120	44.3	149	38.3
4. 乳幼児と青年層がふれあう機会の拡大	80	29.5	129	33.2
5. 男女共同参画教育の推進	135	49.8	177	45.5
6. 性行動・妊娠・出産の理解教育推進	88	32.5	124	31.9
7. 人口学の知識の普及促進(人口教育)	34	12.5	75	19.3
8. その他	12	4.4	30	7.7

問19d 税・社会保障

選択肢	第2回		第1回	
	度数	選択率	度数	選択率
総数	271		389	
1. 103万円の壁(所得税)の解消	132	48.7	168	43.2
2. 130万円の壁(社会保険料)の解消	124	45.8	163	41.9
3. 育児保険の創設	101	37.3	130	33.4
4. N分N乗方式の税制導入	30	11.1	42	10.8
5. ファミリーフレンドリー企業の税制優遇	94	34.7	132	33.9
6. 乳幼児医療費の無料化	143	52.8	179	46.0
7. 独身税の創設	45	16.6	77	19.8
8. 公営住宅の充実	48	17.7	79	20.3
9. その他	6	2.2	14	3.6

問21 あなたは、少子化対策として、どの分野の政策に最も力を入れるべきだと思いますか。

問21

少子化対策重点分野	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
児童福祉	23	8.5	51	13.1
労働・雇用	171	63.1	174	44.7
教育	30	11.1	52	13.4
社会保障	21	7.7	48	12.3
税制	15	5.5	28	7.2
その他	7	2.6	26	6.7
不詳	4	1.5	10	2.6
合計	271	100.0	389	100.0

問22 日本の社会保障給付費に占める児童・家族関係給付費（児童手当、児童福祉サービス、育児休業給付および出産関係費）は、3.8%（約3.2兆円、2003年）ですが、ヨーロッパ先進諸国の多くは約10%を占めています。あなたは、今後、児童・家族関係給付費をどの程度まで引き上げるべきだと思いますか。

問22 家族関係給付費の割合

統計指標	第2回	第1回
度数 有効	261	365
欠損値	10	24
平均値	9.59	9.07
平均値の標準誤差	0.172	0.193
中央値	10.00	10.00
最頻値	10.0	10.0
標準偏差	2.775	3.680
分散	7.702	13.544
最小値	3.8	3.8
最大値	20.0	35.0

割合	第2回			第1回		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
3.80	1	0.4	0.4	4	1.0	1.1
4.00	3	1.1	1.1	6	1.5	1.6
5.00	22	8.1	8.4	61	15.7	16.7
6.00	4	1.5	1.5	14	3.6	3.8
6.80	1	0.4	0.4			
7.00	13	4.8	5.0	32	8.2	8.8
7.20	1	0.4	0.4			
7.50	3	1.1	1.1	4	1.0	1.1
7.60	2	0.7	0.8	2	0.5	0.5
7.80				1	0.3	0.3
8.00	24	8.9	9.2	29	7.5	7.9
8.50	1	0.4	0.4			
9.00	3	1.1	1.1			
9.10	1	0.4	0.4			
9.50	1	0.4	0.4			
10.00	150	55.4	57.5	171	44.0	46.8
10.50	1	0.4	0.4			
11.00	1	0.4	0.4	3	0.8	0.8
12.00	6	2.2	2.3	10	2.6	2.7
13.00	2	0.7	0.8			
14.00				1	0.3	0.3
15.00	15	5.5	5.7	16	4.1	4.4
20.00	6	2.2	2.3	8	2.1	2.2
30.00				2	0.5	0.5
35.00				1	0.3	0.3
合計	261	96.3	100.0	365	93.8	100.0
不詳	10	3.7		24	6.2	
総数	271	100.0		389	100.0	

V. フェイスシート

問23 年齢

統計指標	第2回			第1回		
	男性	女性	総数	男性	女性	総数
度数 有効	160	104	264	217	160	379
欠損値	1	2	7	0	0	10
平均値	54.2688	49.9712	52.5758	52.7465	48.3938	50.2850
平均値の標準誤差	0.80083	1.13596	0.67144	0.78439	1.09678	0.59409
中央値	56.0000	50.0000	53.0000	53.0000	47.0000	50.0000
最頻値	58.00	57.00	57.00	60.00	40.00	57.00
標準偏差	10.12980	11.58460	10.90967	11.55483	13.87323	11.56569
分散	102.613	134.203	119.021	133.514	192.467	133.765
最小値	30.00	27.00	27.00	28.00	26.00	26.00
最大値	81.00	75.00	81.00	99.00	99.00	81.00

問23 性別

確信度	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
男	161	59.4	220	56.6
女	106	39.1	163	41.9
不詳	4	1.5	6	1.5
合計	271	100.0	389	100.0

問25 職業

職業	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
大学教員	191	70.5	270	69.4
大学以外の研究機関の研究者	31	11.4	52	13.4
地方自治体職員	4	1.5	4	1.0
医師, 医療従事者	16	5.9	21	5.4
国家公務員 (研究職を除く)	2	0.7	5	1.3
大学院生	1	0.4	1	0.3
その他	20	7.4	25	6.4
不詳	6	2.2	11	2.8
合計	271	100.0	389	100

年齢分布

年齢	第2回			第1回		
	度数	パーセント	有効パーセント	度数	パーセント	有効パーセント
26				1	0.3	0.3
27	1	0.4	0.4			
28				3	0.8	0.8
29	1	0.4	0.4	5	1.3	1.3
30	1	0.4	0.4	4	1.0	1.1
31				6	1.5	1.6
32	2	0.7	0.8	3	0.8	0.8
33	2	0.7	0.8	5	1.3	1.3
34	6	2.2	2.3	11	2.8	2.9
35	7	2.6	2.7	9	2.3	2.4
36	4	1.5	1.5	9	2.3	2.4
37	5	1.8	1.9	4	1.0	1.1
38	5	1.8	1.9	9	2.3	2.4
39	5	1.8	1.9	9	2.3	2.4
40	4	1.5	1.5	11	2.8	2.9
41	3	1.1	1.1	9	2.3	2.4
42	9	3.3	3.4	9	2.3	2.4
43	4	1.5	1.5	7	1.8	1.8
44	6	2.2	2.3	11	2.8	2.9
45	6	2.2	2.3	12	3.1	3.2
46	7	2.6	2.7	7	1.8	1.8
47	8	3.0	3.0	14	3.6	3.7
48	8	3.0	3.0	11	2.8	2.9
49	8	3.0	3.0	10	2.6	2.6
50	12	4.4	4.5	12	3.1	3.2
51	6	2.2	2.3	10	2.6	2.6
52	9	3.3	3.4	10	2.6	2.6
53	6	2.2	2.3	11	2.8	2.9
54	7	2.6	2.7	8	2.1	2.1
55	4	1.5	1.5	13	3.3	3.4
56	11	4.1	4.2	14	3.6	3.7
57	16	5.9	6.1	18	4.6	4.7
58	11	4.1	4.2	11	2.8	2.9
59	10	3.7	3.8	7	1.8	1.8
60	8	3.0	3.0	14	3.6	3.7
61	7	2.6	2.7	9	2.3	2.4
62	6	2.2	2.3	8	2.1	2.1
63	8	3.0	3.0	9	2.3	2.4
64	5	1.8	1.9	4	1.0	1.1
65	5	1.8	1.9	6	1.5	1.6
66	2	0.7	0.8	1	0.3	0.3
67	4	1.5	1.5	6	1.5	1.6
68	6	2.2	2.3	6	1.5	1.6
69	3	1.1	1.1	2	0.5	0.5
70	3	1.1	1.1	4	1.0	1.1
71	1	0.4	0.4	3	0.8	0.8
72	4	1.5	1.5	3	0.8	0.8
73	2	0.7	0.8	3	0.8	0.8
74	1	0.4	0.4	2	0.5	0.5
75	3	1.1	1.1	1	0.3	0.3
76	1	0.4	0.4	2	0.5	0.5
77				1	0.3	0.3
78				1	0.3	0.3
81	1	0.4	0.4	1	0.3	0.3
合計	264	97.4	100.0	379	97.4	100.0
不詳	7	2.6		10	2.6	
総数	271	100.0		389	100.0	

問24a 専門分野

専門分野	第2回		第1回	
	度数	選択率	度数	選択率
総数	271		389	
1. 人口学	67	24.7	94	24.2
2. 経済学	48	17.7	76	19.5
3. 経営学	9	3.3	10	2.6
4. 社会学・文化人類学	104	38.4	168	43.2
5. 教育学	36	13.3	43	11.1
6. 心理学	28	10.3	31	8.0
7. 歴史学	12	4.4	17	4.4
8. 哲学・思想史・倫理学	4	1.5	13	3.3
9. 法学	9	3.3	19	4.9
10. 政治学・行政学	17	6.3	24	6.2
11. 医学・公衆衛生学	82	31.3	98	25.2
12. 数学・統計学	25	9.2	44	11.3
13. 人類学	11	4.1	10	2.6
14. 農学	1	0.4	2	0.5
15. 地理学	7	2.6	9	2.3
16. 家政学	19	7.0	31	8.0
17. 助成額	48	17.7	67	17.2
18. 老年学	23	8.5	37	9.5
19. マスコミ・ジャーナリズム	3	1.1	6	1.5
20. その他	23	8.5	40	10.3

問24b 関心領域

関心領域	第2回		第1回	
	度数	選択率	度数	選択率
総数	271		389	
1. 人口	52	19.2	70	18.0
2. 出生	42	15.5	58	14.9
3. 結婚・離婚	34	12.5	49	12.6
4. 疾病・死亡	32	11.8	35	9.0
5. 家族	104	38.4	147	37.8
6. 高齢化	52	19.2	73	18.8
7. 人口移動・移民・エスニシティ	16	5.9	28	7.2
8. 労働・失業	26	9.6	34	8.7
9. 社会保障・福祉	61	22.5	82	21.1
10. 社会政策・家族政策	51	18.8	86	22.1
11. 経済政策	13	4.8	18	4.6
12. マクロ経済・財政	8	3.0	18	4.6
13. 地域社会	37	13.7	67	17.2
14. 保健・衛生・医療	74	27.3	90	23.1
15. セクシュアリティ	18	6.6	28	7.2
16. ジェンダー	49	18.1	81	20.8
17. 環境・資源・エネルギー	19	7.0	33	8.5
18. 社会調査	29	10.7	40	10.3
19. 推計・シミュレーション	13	4.8	18	4.6
20. その他	10	3.7	16	4.1

(3つまで複数回答可)

問26 居住地

居住地	第2回		第1回	
	度数	パーセント	度数	パーセント
北海道	11	4.1	13	3.3
青森県	1	0.4	1	0.3
岩手県	3	1.1	2	0.5
宮城県	2	0.7	3	0.8
秋田県	1	0.4	3	0.8
山形県	1	0.4	1	0.3
福島県	1	0.4	2	0.5
茨城県	2	0.7	4	1.0
栃木県	1	0.4	1	0.3
群馬県	2	0.7	1	0.3
埼玉県	19	7.0	17	4.4
千葉県	13	4.8	19	4.9
東京都	81	29.9	129	33.2
神奈川県	15	5.5	24	6.2
新潟県	4	1.5	4	1.0
富山県	2	0.7	2	0.5
石川県	2	0.7	2	0.5
福井県	2	0.7	2	0.5
山梨県	1	0.4	1	0.3
長野県	2	0.7	3	0.8
岐阜県	3	1.1	3	0.8
静岡県	2	0.7	1	0.3
愛知県	17	6.3	25	6.4
三重県	2	0.7	3	0.8
滋賀県	1	0.4	1	0.3
京都府	9	3.3	15	3.9
大阪府	17	6.3	21	5.4
兵庫県	7	2.6	12	3.1
奈良県	4	1.5	6	1.5
和歌山県	2	0.7	3	0.8
鳥取県	2	0.7	2	0.5
島根県	2	0.7	2	0.5
岡山県	1	0.4	3	0.8
広島県	4	1.5	4	1.0
山口県	2	0.7	5	1.3
徳島県	1	0.4	4	1.0
愛媛県	2	0.7	3	0.8
高知県	1	0.4	1	0.3
福岡県	8	3.0	16	4.1
佐賀県	2	0.7	2	0.5
長崎県	2	0.7	2	0.5
熊本県	1	0.4	1	0.3
大分県	1	0.4	1	0.3
宮崎県			1	0.3
鹿児島県	2	0.7	3	0.8
沖縄県	1	0.4		
不詳	9	3.3	15	3.9
合計	271	100.0	389	100.0

(付属資料3)

少子化の見通しに関する有識者調査

【デルファイ調査・第2回】

平成18年4月10日

(調査実施) 少子化研究会

(研究助成) 厚生労働省

対象となられた皆様へ

このたびは、調査にご協力いただきまして、まことにありがとうございます。

この調査は、厚生労働科学研究費「少子化関連施策の効果と出生率の見通しに関する研究」(課題番号 H17-政策-017) のプロジェクトの一環として行なわれているものです。人口、経済、家族、公衆衛生などの分野に専門的知識をお持ちの皆様を対象として、日本の少子化に関する動向や政策課題を中心にご意見をうかがい、今後の少子化関連施策の展開にあたって基礎資料を提供することを目的としております。そこで、この調査では、有識者の予測の方向性を明確に見出すためにデルファイ法を採用しております。

今回は、2005年11～12月に実施いたしました第1回調査の結果を参照しながらご回答いただく、第2回目の調査となります。

なお、この調査票への回答は、統計を作成する目的だけに用いられ、それ以外の用途には決して使用することはありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただきますよう、お願いいたします。

記入上のお願い

- ・ ご記入は、鉛筆または黒や青のボールペンでお願いいたします。
- ・ 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、数字を記入していただくものがあります。

ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、

4月30日(日)までにご投函ください。

調査に関するご説明

【デルファイ法とは？】

多数の人に同一のアンケート調査を繰り返し、回答者の意見を収斂させる方法です。本研究プロジェクトでは2回の調査を行ないます。2回目の調査票には、第1回目の調査結果が併記され、そのデータを参考にしながら、質問を再評価して回答をしていただきます。

【調査対象者の選定方法】

今回の調査は、人口、経済、家族、公衆衛生などの分野について、専門的知識や深い関心をお持ちの有識者を対象としております。そこで、対象者は、本調査プロジェクトメンバーからの推薦により選出させていただきました。(ホームページの「調査のあらまし」「個人情報の保護」もどうぞご覧ください。)

【調査のしくみ】

調査は、郵送法により実施いたします。調査の企画・分析は、本調査プロジェクトメンバーによって結成された少子化研究会が行ない、調査票の個票データ入力、調査会社(株)アジュールに委託しております。

【個人情報保護について】

委託会社とは個人情報保護の文書を取り交わし、個人情報がもれることのないよう管理を行ないます。また、結果は集計して表示され、個々人がどのような回答をしたのかは公表されません。

【調査結果のフィードバックについて】

調査開始と同時に、下記サイトアドレスに、本調査の情報を提供するホームページを開設しております。このページに、調査結果など最新情報を掲載いたします。また、2回目の調査・分析終了時には、2回の調査にご協力いただいた希望者を対象に、個人情報を除外した個票データの公開も予定しています。

【お問い合わせ先】

本調査の詳細情報、調査結果等につきましては、下記ホームページをご覧ください。その他のお問い合わせは、ホームページ上よりメールにて受付けております。

◇ 少子化の見通しに関するデルファイ調査ホームページ

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~delphi/>

◇ 少子化研究会事務局

明治大学政治経済学部 加藤久和研究室(〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1)

I. 「少子高齢化社会」についておたずねします。

問1 あなたは「少子高齢化社会」にどのようなイメージをお持ちですか。あなたのイメージに最も近いものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 明るいイメージ 2. どちらかというと明るいイメージ 3. どちらかというと暗いイメージ 4. 暗いイメージ |
|--|

前回結果 (N=389)
1. 2.1%
2. 9.5%
3. 72.0%
4. 13.4%
不詳3.1%

問2 あなたは「少子化」の流れ（出生率の継続的な低下）をどのように考えていますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 少子化の流れは、いずれ回復する 2. 少子化の流れは、今後も進む 3. 現在の水準程度で推移する |
|---|

前回結果 (N=389)
1. 10.8%
2. 65.8%
3. 22.9%
不詳0.5%

問3 現在行なわれている様々な少子化対策についておたずねします。

あなたは「少子化対策」を行なうべきだと考えますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|--|-------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 少子化対策は、行なうべきである → 問4へ 2. 少子化対策は、必要ない 3. わからない | } 問5へ |
|--|-------|

前回結果 (N=389)
1. 83.5%
2. 12.3%
3. 2.8%
不詳1.3%

問4 問3で「1」に○をつけた方におたずねします。

現在行なわれている少子化対策は十分だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 十分に充実している 2. 十分ではないので、さらに充実すべきである 3. わからない |
|---|

前回結果 (N=325)
1. —
2. 95.4%
3. 3.4%
不詳1.2%

問5 少子化の原因として、結婚行動の変化（未婚化・晩婚化・非婚化）と夫婦の出生行動の変化（出生テンポの遅れ、少産化）が挙げられますが、それらの変化を進めたおもな社会経済的背景は、次のどれだと思いますか。下の選択肢ボックスから、**最大3つまで**あてはまるものを選び、それぞれ、**回答欄に番号を記入**してください。

【回答欄】（最大3つまで番号を記入）

a. 結婚行動の変化の原因				
---------------	--	--	--	--

b. 夫婦の出生行動の変化の原因				
------------------	--	--	--	--

【選択肢ボックス】

1. 高学歴化	9. 若年者の雇用不安定化
2. 女性の雇用就業率の上昇	10. 若者のコミュニケーション能力の低下
3. 結婚・出産の機会費用の増加	11. 社会保障制度の充実
4. 生き方・ライフスタイルの選択肢の増大	12. 結婚するべきという規範の緩和
5. 性別役割分業意識の根強さ	13. 子どもを持つべきという規範の緩和
6. 長時間労働	14. 保育施設・サービスの不足
7. 成人子の親との同居の長期化	15. 地域のつきあいの希薄化
8. 教育費支出の増加	16. その他（ ）

前回結果（N=389、選択率、単位：％）

	1	2	3	4	5	6	7	8
a結婚行動	36.0	37.3	13.6	57.8	16.2	7.7	13.4	1.0
b出生行動	4.9	22.4	21.9	34.7	19.0	22.9	2.1	43.2
	9	10	11	12	13	14	15	16
a結婚行動	29.0	9.8	1.5	51.7	3.9	2.3	2.8	5.1
b出生行動	8.2	1.0	8.0	0.8	42.9	38.0	6.4	8.0

II. 「将来の人口の動き」についておたずねします。

※ 問6～9の「確信度」については、以下の基準を参考にしてご回答ください。

確 信 度 の 基 準	「大」・・・当該事項に関する <u>専門知識に基づいて判断した</u> 「中」・・・専門ではないが、 <u>一般的な知識から判断した</u> 「小」・・・判断にあたって <u>十分な根拠を持っていない</u>
----------------------------	--

問6 将来の合計(特殊)出生率は、どのくらいになると予想されますか。2010年、2025年、2050年の3時点について、具体的な数値をご記入ください。また、その予想の確信度を選び、番号に○をつけてください。

年次	合計(特殊)出生率	確信度			前回結果 (平均値)
		大	中	小	
a. 2010年		1	2	3	1.23 (N=375)
b. 2025年		1	2	3	1.22 (N=371)
c. 2050年		1	2	3	1.24 (N=363)

* 2004年実績値：1.29（厚生労働省『人口動態統計』平成16年）。

問7 2025年、2050年ごろには、日本人男女の平均寿命（0歳時の平均余命）はどのくらいになると予想されますか。具体的な数値をご記入ください。また、その予想の確信度を選び、番号に○をつけてください。

性別	年次	平均寿命	確信度			前回結果 (平均値)	
			大	中	小		
男性	a. 2025年	年	1	2	3	2025年 男性	79.4年 (N=376)
	b. 2050年	年	1	2	3	2050年 男性	80.2年 (N=370)
女性	c. 2025年	年	1	2	3	2025年 女性	86.3年 (N=376)
	d. 2050年	年	1	2	3	2050年 女性	86.9年 (N=369)

* 2004年実績値：男性78.6年、女性85.6年（厚生労働省『平成16年簡易生命表』）。

問8 50歳まで独身を通した人の割合（これを**生涯未婚率**といいます）は、2025年、2050年には、どのくらいになると予想されますか。**具体的な数値をご記入ください**。また、その**予想の確信度**を選び、番号に○をつけてください。

性別	年次	生涯未婚率	確信度			前回結果 (平均値)	
			大	中	小		
男性	a. 2025年	%	1	2	3	2025年 男性	16.1% (N=370)
	b. 2050年	%	1	2	3	2050年 男性	18.8% (N=366)
女性	c. 2025年	%	1	2	3	2025年 女性	9.3% (N=371)
	d. 2050年	%	1	2	3	2050年 女性	12.2% (N=366)

* 2000年実績値：男性12.6%、女性5.8%（総務省統計局『国勢調査』平成12年）。

問9 2025年、2050年には、**女性の平均初婚年齢**はどのくらいになると予想されますか。**具体的な数値をご記入ください**。また、その**予想の確信度**を選び、番号に○をつけてください。

年次	女性の 平均初婚年齢	確信度			前回結果 (平均値)
		大	中	小	
a. 2025年	歳	1	2	3	29.0歳 (N=370)
b. 2050年	歳	1	2	3	29.8歳 (N=362)

* 2004年実績値：27.8歳（厚生労働省『人口動態統計』平成16年）。

最近の出生率低下は、晩婚化など結婚行動の変化と、夫婦の出生力低下が大きな要因となっていると考えられています。これから20年くらいを考えたとき、結婚行動や出生行動がどうなっていくのか、将来の予想をおたずねします。

問10 これから20年くらいを考えたとき、**結婚する男女が持つ子どもの数**は、どうなると予想されますか。番号を**1つだけ選び**、○をつけてください。「1. 減少する」を選んだ場合は、その内訳について、強いて言えばどちらがあなたの予想に近いか、**1つだけ選び**、番号に○をつけてください。


a. 結婚する男女の 子ども数の動向	b. 減少の内訳	前回結果	
		a (N=389)	b (N=226)
1. 減少する →	1. 子どもを持たない	1. 58.1%	1. 38.1%
2. 現状と変わらない	夫婦が増える	2. 32.9%	2. 61.1%
3. 増加する	2. 二人以上持つ夫婦が減り、	3. 6.9%	不詳 0.9%
4. わからない	一人っ子を持つ夫婦が増える	4. 1.0%	
		不詳 1.0%	

問11 現在、18～34歳の未婚男女のうち、同棲経験のある人は約7%とされています*。これから20年くらいを考えたとき、**同棲経験のある未婚者の割合**は、どうなると予想されますか。番号を**1つだけ選び**、○をつけてください。「1. 上昇する」を選んだ場合は、何%まで上昇するか、**具体的な数値**をご記入ください。

a. 同棲経験割合の動向	b. 上昇の程度	前回結果	
		a (N=389)	b (N=296)
1. 上昇する →	約_____%へ上昇する	1. 77.9%	平均値 16.1%
2. 現状と変わらない		2. 18.5%	
3. 低下する		3. 1.0%	
4. わからない		4. 1.5%	
		不詳 1.0%	

* 国立社会保障・人口問題研究所『第12回出生動向基本調査』独身者調査：18～34歳の未婚男女について。

問 12 日本の婚外子（嫡出でない子）の割合は、2003年に1.93%（21,634人）でした*。これから20年くらいを考えたとき、**婚外子割合**はどのように予想されますか。番号を**1つだけ選び**、○をつけてください。「1. 上昇する」を選んだ場合は、何%まで上昇するか、**具体的な数値**をご記入ください。


a. 婚外子割合の動向
1. 上昇する 
2. 現状と変わらない
3. 低下する
4. わからない

b. 上昇の程度
約 _____ % へ上昇する

前回結果	
a (N=389)	b (N=244)
1. 64.0%	平均値 5.3%
2. 32.1%	
3. 1.5%	
4. 1.0%	
不詳 1.3%	

* 厚生労働省『人口動態統計』平成15年。全出生数に対する割合。

問 13 日本の離婚率は、2003年に2.25‰(約28万組)でした*。これから20年くらいを考えたとき、**離婚率**はどのように予想されますか。番号を**1つだけ選び**、○をつけてください。「1. 上昇する」を選んだ場合は、何%まで上昇するか、**具体的な数値**をご記入ください。


a. 離婚率の動向
1. 上昇する 
2. 現状と変わらない
3. 低下する
4. わからない

b. 上昇の程度
約 _____ ‰ へ上昇する

前回結果	
a (N=389)	b (N=338)
1. 89.2%	平均値 5.8‰
2. 8.5%	
3. 0.5%	
4. 0.8%	
不詳 1.0%	

* 厚生労働省『人口動態統計』平成15年。総人口に対する率。

問 14 日本の再婚率は、2003年に夫1.90‰、妻1.59‰でした*。これから20年くらいを考えたとき、**妻の再婚率**はどのように予想されますか。番号を**1つだけ選び**、○をつけてください。「1. 上昇する」を選んだ場合は、何%まで上昇するか**具体的な数値**をご記入下さい。

a. 妻の再婚率の動向
1. 上昇する 
2. 現状と変わらない
3. 低下する
4. わからない

b. 上昇の程度
約 _____ ‰ へ上昇する

前回結果	
a (N=389)	b (N=279)
1. 73.3%	平均値 3.6%
2. 17.2%	
3. 4.4%	
4. 3.9%	
不詳 1.3%	

* 厚生労働省『人口動態統計』平成15年。15歳以上人口に対する率。